

関谷和子家文書目録と目録作成について

- 1 本文書は、市内太子町関谷和子氏が所蔵していた史料である。
今回、氏のご厚意により寄贈いただき、須坂市文書館において史料整理・目録化することができた。
- 2 本文書は、明治13年11月から昭和31年までの近現代の史料群である。
明治期は、「入○関谷商舗」の蚕種商関係の史料が多く、大正期の共同水汲み場史料も残る。また、アジア・太平洋戦争後は電気機器修理業に転じたもようで、電気機器協同組合関係の史料が残る。
書籍関係では、明治期の教科書類と関谷和子氏本人が使用した須坂高等女学校の教科書類が多い。とりわけ、昭和17年3月発行の『報國』創刊號（長野縣須坂高等女學校報國團）は戦時下の高女教育の内容を知るうえで貴重な史料といえる。
- 3 これらの史料を「関谷和子家文書目録」として目録を作成した。『須坂市域の史料目録』の連番整理番号「079」（79番目）に位置づけ、史料番号は「079-1」から開始して、整理ラベルを貼付した。
文書目録の番号配置は時系列を基本とし、前半（079-1～39まで）は関谷家の商売関係を、後半（079-40～79）は書籍・教科書類を分類配置した。
史料番号は079-79までで、史料総点数は102点である。
- 4 史料目録の作成に当たっては史料活用の便を考慮して、以下のようにした。
 - (1) 史料名は、原則として史料の表書き部分に記された表題を記載した。
 - (2) 史料形態については、以下のように略記した。

横帳（横）	横半帳（横半）	書籍類（冊）	紐綴じ綴類（綴）
1枚文書（紙）	等		

なお、史料保存の便宜上（束）（綴）としたものもある。
- 5 本史料目録は、須坂市文書館の専門員大塚尚三が作成した。

2018年11月26日

須坂市文書館